



SAITAMA CHORAL NEWS パウゼ

Pause

第48号

2018年3月30日



埼玉県合唱連盟

〒330-8557 さいたま市浦和区常盤4-12-13

(朝日新聞さいたま総局内)

TEL 048-824-8161

FAX 048-831-5310

<http://saicl.net/>

60周年 理事長からのメッセージ

新たな出発

先だっての3月21日には、皆さまのご協力により当連盟創立60周年記念事業を無事に執り行うことができ、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。当日は春分の日にもかかわらず、みぞれや雪の降る天気となっていましたが、上田県知事はじめ全日本合唱連盟の岸理事長、関東支部の各県理事長など多くの方々のご列席を賜る中、盛大に式典・演奏会・祝賀会を行うことができました。

60周年…これを人に例えると「還暦」になりますが、それは人生の「再出発」を意味します。私たち埼玉県合唱連盟もこの感謝の還暦事業を終え、ここから新たな出発を期し、進んで行くべき時を迎えるました。

現在、当連盟では6つの事業

- ◎ワークショップ ◎合唱祭 ◎コンクール
- ◎男声コーラスフェスティバル
- ◎ヴォーカルアンサンブルコンテスト
- ◎おかあさんコーラス大会

に加え◎指導者派遣を中心とした活動を行っています。しかしながら、私たちはただこれらの事業を回しているだけではいけません。常に「より良いもの」「より皆さま方に喜び、満足していただけるもの」を求めていかなくてはならないと考えております。

そのために当連盟では3年前から大きな指針をスローガンとして設定いたしました。それは、M…モチベーションアップと A…アカデミックで C…

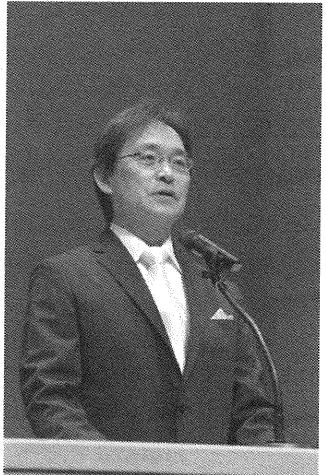
クリエイティブな活動と運営です。それぞれの事業ではこのスローガンを根底に構え、それに添えるような内容を求めて続けて行きたいと考えております。

また60周年記念を機に誕生した、「プラチナ合唱団」「ジュニア合同の合唱」や、全日本で決定した「(H31年度からの) コンクール小学校部門の全国大会」などに関しても、今後どのように進めて行ったらよいかしっかり検討して参ります。

私たちは関東支部の一員であり、全日本合唱連盟の一員でもありますので、そのルールに則った活動を運営して参りますが、その上で「今の埼玉に必要なもの」「合唱音楽を展開して行く上で本当に必要なもの」を追求し、それに応えられるような連盟であります。埼玉県合唱連盟は加盟団体数が350を超え、全国でも東京都に次ぐ2番目に多い位置におり、「合唱王国」と称していただく場面もあるのですが、それに甘んじることなく先を見て、上を見て、より良い合唱連盟を目指して参りたいと思います。

まだまだ至らない部分も多く、ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

(理事長 小野瀬照夫)





Memorial Concert

南常務理事、北添理事の楽しい司会で6つのブロックに分けて演奏を行いました。1番目は、かわいいジュニアコーラス、指揮は本田副理事長、小林とせ子理事、ピアノは金田理事。素敵な振り付けもあり、ホールが温かさに包まれました。2番目は男声合唱。ここからの指揮は小野瀬理事長で、「斎太郎節」のソロは、男声あんさんぶる「ポパイ」の永島賢一郎さん。「マイウェイ」からは、N響団友オーケストラによる素敵な演奏と共に、女声、中学生、高校生、一般と進んで参りました。各ブロックの転換時間を利用しての参加者インタビューでは、小学生から大人まで、笑いもこぼれる中、様々な世代の声を聞くことができました。連盟関係では、元副理事長の大竹教子顧問と、30年以上理事を務められた前副理事長の新祖章参与の思い出話もありました。「オーケストラと共に合唱を楽しもう」のコンセプトのもと行われた記念演奏会は、最後に約500名の来場者の皆さんと700名を超える合唱参加者とともに、「威風堂々」の大合唱で感動のうちに終了いたしました。（副理事長 浅井 一郎）



ジュニア：「星に願いを」
「スーパーカリフラジスティックエクスピアリードーシャス」

ジュニア
戸田市児童合唱団
矢部桃子さん
今日はたのしかつです。特に「スーパーカリフラジスティックエクスピアリードーシャス」でウキウキした振付がとてもよかったです。

女声：「花」「ウイーン我が夢の街」



男声：「斎太郎節」「マイウェイ」

男声：益楽男グリークラブ
金澤篤憲さん
今日は雪が降っていますが、好きな合唱曲は多田武彦作曲の「雨」です。

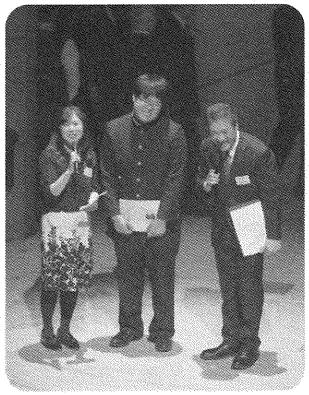
高校生：「Ave verum Corpus」「大地讃頌」

中学生：熊谷市立熊谷東中学校
内田奈波さん

心に残るステージは、今年のSVEC。初めて指揮者なしで歌ったことです。自分たちで考えて曲を創っていくことが印象深かった。普段は勉強と部活とで気持ちを区切って活動しています。



中学生：「翼をください」「旅立ちの日に」



一般：「ハallelujah・コーラス」



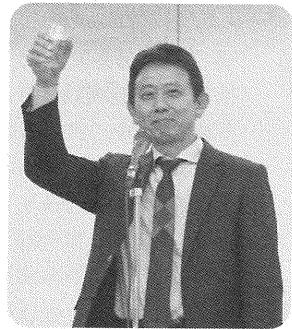
エンディング：「威風堂々」



Celebration Party



左から 新祖 章参与、田尻明規元理事長、
宮寺 勇元理事長



乾杯の挨拶をする時枝秀樹
朝日新聞さいたま総局長

元理事長 宮寺 勇先生



日頃の現役理事たちの努力がよくわかる、良い会でした。理事の皆様ご苦労様でした。これから高齢化する中、若い合唱団が活躍して、埼玉県の合唱文化を継続していってほしい。合唱祭などで、老若男女が刺激しあうことが大切です。



元理事 森木 妙子先生



現役の理事だった頃、とにかく忙しく、いつも会議が長引いて毎日が戦いのようでした。しかし、各行事が終わった時に達成感を味わうことで、理事の活動を続けていくことが出来ました。現在現役の理事さん方、頑張ってください。

『先輩！
ありがとうございます』



元理事 斎藤 洋子さん



現理事の年齢層が幅広くて、理事会全体の輪がうまく調和が取れていると思います。これからも合唱連盟に期待しています。

等々、現在の埼玉県合唱連盟に大変あいがたいお言葉を頂戴いたしました。どうもありがとうございました。



記録集をまとめました

埼玉県合唱連盟では、連盟創立60周年記念事業の一環として、記録集をまとめました。これは過去10年間の合唱祭、コンクール、SVEC、男声コーラスフェス、おかあさんコーラス大会など連盟の各種事業に参加出演した団体の発表曲、成績などをまとめたものです。連盟各理事の協力でデータをまとめ、これを精査し、連盟ホームページに掲載するものです。

各合唱団の過去を振り返りながら、未来を見つめる資料として大いにお役立ていただきたいと思います。

(副理事長 本田 尚子)

撮影：スタッフ・テス株、埼玉県合唱連盟



第70回 全日本合唱コンクール全国大会

2017年10月28日(土)・29日(日) 高等学校部門(A・B)、中学校部門(混声・同声)

於: 大阪府大阪市／フェスティバルホール

11月25日(土)・26日(日) 大学職場一般部門(大学ユース・室内・同声・混声)

於: 東京都豊島区／東京芸術劇場

表敬訪問



県立浦和高校グリークラブが昨年11月、上田清司知事を表敬訪問した際、私は同行取材しながら、ふと全国大会前日のことを思い出しました。

私が大阪市のフェスティバルホールに到着するや、下見に来ていた顧問の小野瀬照夫先生と部長の諏訪智也さんにはったり出くわしました。「生徒たちに連れて来てもらいました」と笑顔を見せる小野瀬先生に対し、諏訪さんは適度に緊張した面持ちで「これまで1回1回の演奏を大切にしてきました。明日も悔いの残らないよう頑張ります」。翌日、その言葉通り、県大会や関東大会とはひと味違う熱演で会場を沸かせ、初の文部科学大臣賞に輝きました。

浦高グリーが大切にしてきたのは「一期一会」の演奏。生演奏は毎回違うものになるし、聴いてくれるお客様も変わる、だから毎回心を込めて伝えよう。そんな小野瀬先生の考えは選曲にも表れ、毎回同じように歌うのは困難だと思われる圧巻の「Credo」。先生も部員も「その時にしか出せない音」を心底楽しんだのではないかと思います。

表敬訪問で「Credo」演奏の機会がなかったのは残念でしたが、「音楽は生き物。1回1回の演奏を大事にするのがモットー」という諏訪さんの言葉に、上田知事も感心した様子。さらに、自主性に富んだ練習方法や部活動運営に関する説明も圧巻で、驚いた小松弥生教育長が「運営能力もすごいですね。教育長になってもらおうかな」と冗談交じりに褒めちぎっていたのが印象的でした。(朝日新聞さいたま総局記者 森厚志)

淳まじい生徒の力 高校生の力

埼玉県立浦和高等学校グリークラブ
顧問 小野瀬照夫

表彰式壇上で「金賞」の賞状を感慨深く眺めていると、「あなたたちだよ!」の声。何のこと?と思いまや、1位の文部科学大臣賞も戴いた事が分かり、驚愕。3年部長の諏訪智也君の目にはもう涙が溢れ、私は自由曲の長い練習の記憶が蘇った。

2月から生徒主体でパート練習を始め、初めて私が合わせたのが7月下旬の合宿中。その間はずっとパート練習のみ。「合わせは?」と聞いても、生徒からは「まだその段階ではないので」と。当時「曲を変更するなら今のうち?」という言葉も出たと聞く。結論は「この曲をしっかり歌えたらかっこいいよな!」になつたらしい。

期間中、部長と学指揮で作成した「課題曲・自由曲テスト」も実施。それは今私の宝物にもなる。ちなみに平均点は52.7/100点のため、部長が別プリントを作成し全員に学習させていた。

課題曲は「大人の音楽」を目指し、深いフランス語発音ができた。「カワイピアノ賞」も獲得し、今はそのピアノで練習している。

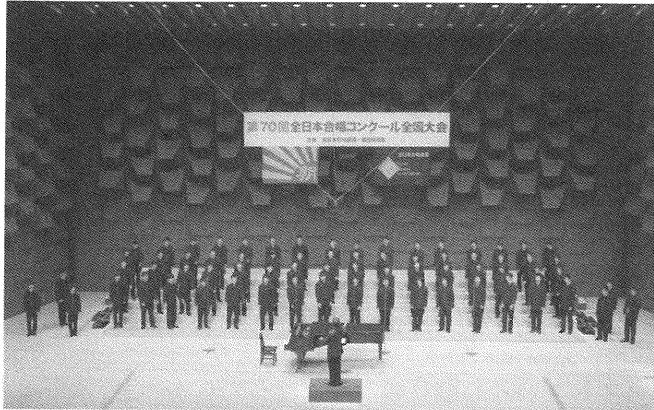


撮影:朝日新聞さいたま総局



～第70回全日本合唱コンクール全国大会～

【高等学校部門Bグループ】



金賞・文部科学大臣賞

浦和高等学校グリークラブ

二年部長 杉本滉歩

浦高らしく、最高の演奏を!!

私たち浦和高校グリークラブは、2年ぶり3度目となる全日本合唱コンクール全国大会に出演し、初の金賞と文部科学大臣賞・カワイ奨励賞を受賞しました。支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。

高校生による男声合唱団が減少しつつある中、全国大会高校部門に出演した唯一の男声合唱団である浦高グリーが全国の皆様に男声合唱の魅力を少しでもお伝えする事が出来たならば幸いです。

浦高グリーの長所は部員それぞれが自分の個性を生かし、何を表現したいのかを考えながら歌っていること、そしてそれぞれの個性を壊さず、一つにまとめてくださる先生がいらっしゃることです。全国大会ではこの長所を十分に発揮することが出来たのではないかと思います。

これからも浦高グリーは歌うこと（＝表現すること）の楽しさと、仲間とともに歌うことが出来ることへの感謝を忘れずに合唱に取り組んでまいります。今後も応援のほど、よろしくお願ひいたします。

松山女子高等学校音楽部

部長 吉川月

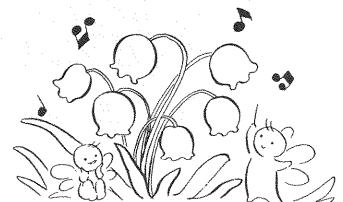
私たちは、今回で4度目となる全日本合唱コンクール全国大会に出演し、金賞および大阪市教育委員会賞を受賞しました。このような賞を受賞できたこと、3年連続で全国大会のステージに立たせていただけたこと、たいへん嬉しく思っています。

私たちは「歌でつながる心と心。歌で誰もが幸せに！」をモットーに、全国大会に向けて妥協することなく日々の練習に励んでまいりました。時には壁にぶつかり涙した日もありましたが、顧問の先生方の熱心なご指導のもと137人全員で乗り越え、本番では私たちらしい音楽を精一杯演奏することが出来ました。笑顔の絶えない最高の仲間達と共に励み、歌った幸せな日々はかけがえのない宝物です。今回遠方にも関わらず、保護者の方、OG、沢山の方々に応援していただいたこと、本当に感謝しています。

これからも応援してくださる全ての方々への感謝の気持ちを胸に、練習に励んで参ります。



金賞・大阪市教育委員会賞





～第70回全日本合唱コンクール全国大会～

叡明高等学校混声合唱団

顧問 蛭田光仁

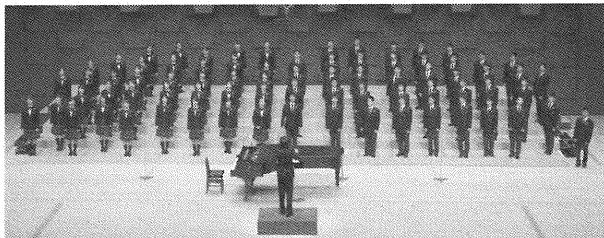
思えば一昨年。前年度銀賞で、「今年こそは！」と臨んだ千葉での関東大会。力を尽くしながらも無残な敗退。帰りのバスの中は、誰も喋らず、ただすすり泣く声だけが聞こえ、胸に刺さる思いでした。

それから1年。無念の思いをバネに頑張り、ついに念願の「全国大会出場」の権利を手にすることができました。生徒たちの顔を見て、「本当に良かった…。」と、不覚にも涙がこぼれてしまいました。

いよいよ、大阪の地。全国各地から集まって来た強豪校の独特的雰囲気に呑まれ、緊張が高まりました。そして、何と列を間違えて舞台上へ。気持ちが集中できないまま終わってしまい、心残りの本番となってしまいました。

しかし、それも含め、この日の経験は、生徒たちの一生の思い出となつたことでしょう。帰りの新幹線では、みんな「やりきった。」という笑顔で輝いていました。

混声の合唱団でスタートして3年。まだまだ伝統はありませんが、これからも、ハイレベルな埼玉県の合唱の中で、ひとつひとつ学び、成長していきたいと思います。挑戦、試練、感動の場をありがとうございます。陰で支えてくださる埼玉県合唱連盟の方々に心より感謝いたします。

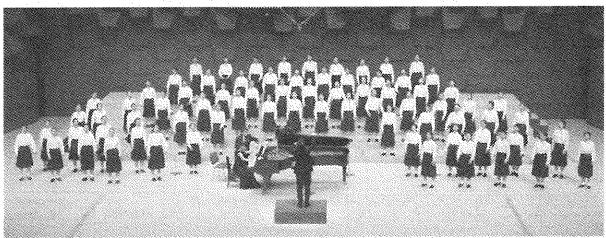


銀賞

浦和第一女子高等学校音楽部

部長 大内華乃

昨年の全国大会では、自由曲でフランスのボードレールの詩を題材とした委嘱作品を演奏いたしました。題名の「Correspondances」は「交感」などの意味を持ち、強く豊かで美しい自然と人間との交わりを描いた一曲です。



銀賞

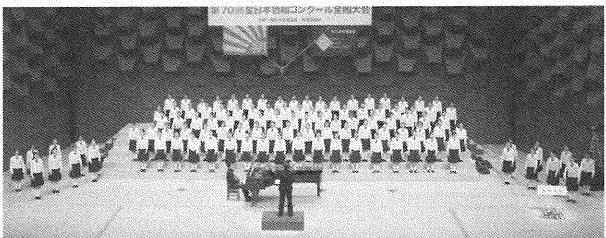
「凛として翔破せよ」というスローガンのもと、全員で創る音楽を磨き続けた一年間。日々の練習では上手く行かない事も多く苦しい時期もございましたが、本番の数分のための想い・情熱は、言葉では言い表すことの出来ない特別なものでした。

当日、演奏直後は大きな達成感を覚えると共に、合唱の楽しさ、全国の舞台で演奏出来る事の喜びを改めて感じました。全国レベルの仲間と共に同じ時を過ごした事で、自分達に足りないものや音楽に対する心の有り方を改め感じ、学ぶことが出来たと思います。今後もその貴重な経験と周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、部員一同更なる高みを目指し、練習に励んで参ります。

星野高等学校音楽部

部長 野澤蒼未

大阪フェスティバルホールは、雰囲気も音響も素晴らしい会場でした。そして各支部の代表団体がホールに負けない演奏を披露し、会場を沸かせます。



銀賞

極度の緊張を強いられる全国大会の舞台で私の心を支えてくれたのは、喜びも苦労も共にした音楽部の仲間たち、そして、良きライバルである埼玉の仲間たちでした。

『一女』さん『浦高』さん『松女』さん『叡明』さん。どれほど心強かったことか。

後輩達には来年度、また多くの「仲間」たちと、全国大会の舞台で歌う喜びを味わってほしいと切に願っています。

最後になりましたが、応援してくださった埼玉県合唱連盟の皆様に心より感謝申し上げます。



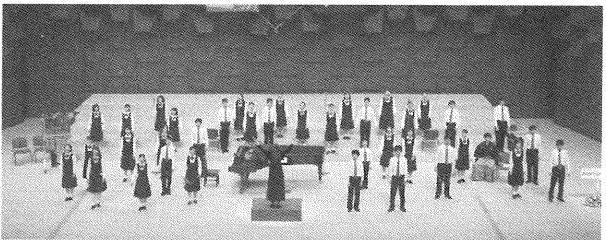
～第70回全日本合唱コンクール全国大会～

【中学校部門 混声合唱の部】

春日部市立武里中学校音楽部

部長 塩川珠理

私たち音楽部は、金賞そして大阪市長賞をいただくことができました。私たちがこのような結果を残すことができましたのは、多くの方からのご支援があったからこそです。本当に感謝しております。



金賞・大阪市長賞

1年から3年生全員にとって全日本合唱コンクール全国大会

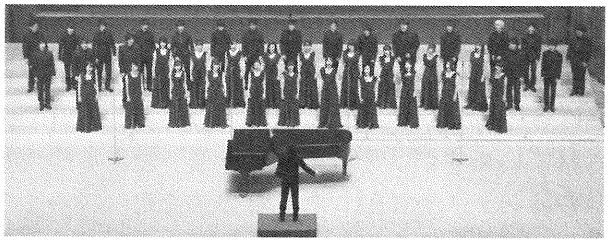
という舞台は初めてだったため、とても楽しみだった反面、不安や緊張する気持ちもありました。自分たちの演奏順となり、ステージに立つと今まで見たこともない景色が広がっていました。自分たちの歌声がホール中に響き渡ったときは本当に感動しました。演奏が終了した後は達成感はありましたかと、不安な気持ちでいっぱいでした。結果発表で「春日部市立武里中学校音楽部、ゴールド金賞」と言わされたときは本当に嬉しかったです。その後、大阪市長賞として再び呼ばれたときは、喜びよりも驚きの方が大きかったです。あのときの事は今でも忘れられません。私にとって全国大会ステージ上でのあの時間と感動は一生の宝物です。

撮影：スタッフ・テス株

【大学職場一般部門 大学ユース合唱の部】

Chor OBANDES

代表 高野 心



銀賞

今年度、私達は新たなチャレンジを試みた。それは今までOBANDESの基盤を作り、引っ張ってくださった、恩師 蓮沼喜文先生からのバトンタッチである。団員である菊地 海杜（元コールクライネス学生指揮者）をコンダクターとして、「団員全員参加の音楽作り」をテーマとした。

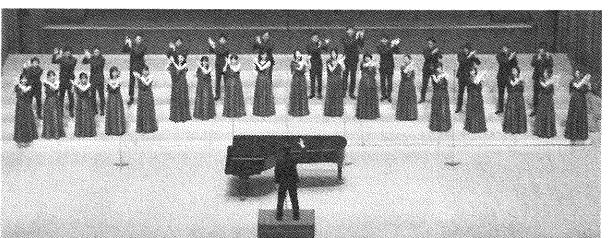
自由曲は千原英喜先生作曲の「V. 終曲 アヴェ・マリア」8声以上のディビジョンを要し、かつ、何度も調を変えながら繰り返されるシンプルな作りは、聴かせ方を間違えれば単調でつまらない演奏になりかねなかった。

蓮沼先生に頼ることが出来ない中、シーズン初めはメンバー皆が困惑したが、最終的には皆で考え、皆で作り上げたアヴェ・マリアを芸術劇場のホールに響かせることができ、聴衆の方々から大きなリアクションをいただけたことはこれまでにない喜びがありました。今後とも、歌い手の主体性が音楽に現れるような、そんな音作りをしていきたい。

【大学職場一般部門 混声合唱の部】

scatola di voce

団長 斎藤圭介



銀賞

この度も全国大会へ推薦していただき、非常に喜ばしく思います。今回の会場は日ごろ私たちにとっても馴染み深い東京・池袋。それでも、東京芸術劇場という素敵なホールで歌う機会というのは殆どのメンバーにとって初めての経験であり、楽しみつつも良い緊張感で臨むことができました。コンクールという場においてまだまだ全国の並み居る合唱団にはかないませんが、目指す音楽を信じてやってきた成果は披露できたのではないかと思っています。

おかげさまでスカートラの名前も皆さんに少しずつ知っていただけるようになり、演奏後にいただく感想等はとても私たちの励みになっています！ 当団は2018年で結成15周年を迎え、6月2日には川口リリアにて記念コンサートを予定しています。コンクールで過去に披露した曲目の再演もありますので、ぜひ多くの方にお越しいただき、聴いていただけたら幸いです。今後とも当団をよろしくお願ひいたします。

撮影：株大阪フォトサービス



第 29 回

埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト

2018年1月14日(日) ジュニアの部・中学校の部
 27日(土) 高等学校の部①・レディーの部
 28日(日) 高等学校の部②・ユースの部・一般の部
 於:久喜総合文化会館

今年も6部門141団体の参加のもと、3日間のコンテストを無事終了することが出来ました。上位大会への推薦数が増えたこともあります、どの部門も熱のこもった演奏が続き、演奏のレベルも確実に上がっていることを感じました。

その一方、昨年審査員の先生からご提案のあった「指揮者なし」での演奏が全体として増えたことも「アンサンブルコンテスト」の在り方を考えると大変喜ばしいことだと思います。

また、今回審査方法を変更いたしました。審査方法は各県のコンテストごとにいろいろな方式が採用されていますが、それぞれに一長一短ある中で、本県のコンテストに適した審査方法を定めていくためにも、今後時間をかけながら検討を重ねていく必要があると思っております。

急遽決まった上位大会への対応に苦慮したところもありました今回のコンテストでしたが、夏のコン



クールとは違った大会としての在り方を探りながら、アンサンブルを学ぶ場として、団体のレベルアップを図る場として、また、アンサンブルの楽しさを観客の皆様にも一層感じていただく場となるようにして参りたいと思っております。

来年度も多くの団体の出演をお待ちしております。
 (常務理事 國弘雅也)

撮影:スタッフ・テス株

第7回 関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト審査結果

2018年3月10日(土) 高等学校部門
 11日(日) 小学校・中学校部門、一般部門
 於:山梨県韮崎市／東京エレクトロン韮崎文化ホール

高等学校部門

【金賞】 星野高等学校音楽部B、埼玉県立川越女子高等学校音楽部、埼玉県立松山女子高等学校音楽部、
 埼玉県立浦和第一女子高等学校音楽部、星野高等学校音楽部A、埼玉県立伊奈学園総合高等学校音楽部
 【銀賞】 埼玉県立松伏高等学校合唱部、埼玉県立浦和高等学校グリークラブ

小学校・中学校部門

【金賞】 春日部市立武里中学校音楽部A、春日部市立武里中学校音楽部B
 【銀賞】 春日部市立春日部中学校合唱部、栄東中学校コーラス部
 【銅賞】 所沢市立狭山ヶ丘中学校合唱部

一般部門

【金賞】 Paradise Relax
 【銀賞】 Wings
 【銅賞】 コール・マーガレット





山脇卓也先生 お疲れのところ あみません お話し聞かせてください！



佐々木

3日間の御審査、誠にありがとうございました。お疲れのところインタビューへのご協力、心より感謝申し上げます。

山脇先生

充実した3日間を過ごさせていただきました。140を超える団体が参加するこ

と自体驚くべきことですが、演奏の質も高く素晴らしい演奏に沢山出会えました。大人数の団体も人数を絞って、「アンサンブル」を追求している。埼玉県合唱連盟の勢いを感じさせるコンテストでしたね。

佐々木

ありがとうございます。では、各部門の感想をお伺いできればと思います。

山脇先生

<ジュニアの部>

「ジュニアらしさ」を活かした演奏が多かったですね。例えば、「わらべうた」を選曲している団体が複数ありました。年代に合わせた選曲の工夫は高く評価できると思います。

<中学校の部>

素晴らしい演奏が続くなかった、夏のコンクールを意識した演奏、夏にピークを持っていくための「SVEC」という「未完成」的な演奏がいくつか見受けられました。もし、夏を見据えるのであれば「基礎固め」を意識した選曲をしても良いかと思います。例えば、コダーイやバルトークの日本語訳や松下耕先生の「エチュード」も適しているかと思います。SVECでの成果を確定してからハイシーズンに臨んでいただきたいと感じました。

<高等学校の部>

さすが埼玉県の高校部門！ハイレベルでした。選曲はハンガリーものが多かったですね。マドリガル等のルネッサンス期の合唱曲にチャレンジすることもお勧めします。

指揮者無しで演奏していた団体が増えたようです。その試みは高く評価する一方で、指揮者がいないことが音楽の自発性に直接つながるわけではないとも思います。本番の舞台で練習通りにできた音楽と、舞台で起きたことに随時反応しながら前に進んでいく音楽には雲泥の差があります。

本番中に、あるパートが練習と違うことをしたとします。そうした時にどのような反応をするか？どのような寄り添いかができるか？それが見えてくる音楽、演奏が面白い。ある意味とてもスリリングです。そこでしか生まれない唯一の音楽を目指します。

よう。

<ユースの部>

どの団体も声が素晴らしい！期待の裏返しで申し上げますが、もっと頑張っていただきたい。合唱の喜び



左から 小野瀬理事長、山脇先生、
佐々木理事、小島副理事長

を感じて舞台に立たれていることは強く伝わるのですが、厳しく客観視する眼も欲しいと感じました。ユースの皆さんの演奏を間近で聴いている高校生の皆さんに合唱人生の「この先」を「夢」を見させてほしいと思います。

<レディー・一般の部>

シニアの合唱団のレヴェルの向上が感じられて嬉しかったです。現在出し得る「持ち声」のなかで、どこまで表現することができるか？その挑戦と真摯な姿勢に心動かされました。

声が豊かに出せなくとも、ご自分たちにとっての「ピアノ」や「フォルテ」を強く意識して演奏されている団体がありました。その意識により音楽が豊かに成立することを学ぶ機会となりました。ありがとうございます。

佐々木

部門ごとに様々な御助言をいただきました。さて、続いては先生の「審査基準」「採点法」について伺います。

山脇先生

私は5つの観点で採点します。各20点。

- ①声（声が良い・音色・統一感）
- ②ハーモニー（美しいハーモニーが実現できているか？）
- ③言葉（何を言っているかが伝わるか？そのニュアンスは適切か？）
- ④アンサンブル（団員同士のコミュニケーション・「耳」が使っているか？他パートとのリズムの関係性は構築できているか？）
- ⑤音楽（楽しかったか？感動したか？）

①～③は技術的な観点で客観的、メカニカル・テクニカル。
④～⑤は主観的な好み。

客観と主観のバランスに留意しながら採点をしています。

この中で一番大事なものは⑤の音楽による「感動」です。どのように「感動」へと聴衆を導いていけるかを考えましょう。「感動」を実現することを目的として①～④の質を高めていっていただきたい。

また、曲にアプローチするうえで重要なポイントは必ずあります。

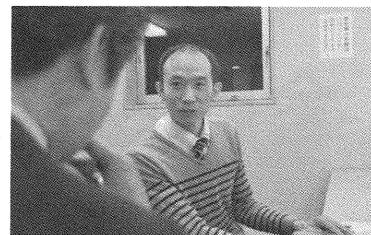
例えばハンガリーものなら5度は完全にハモラせてほしい。この作品なら「ここは抑えてほしい」という部分をきちんと踏まえないと、他の部分で如何に優れたものを提示しても「感動」へは至りません。「感動」を基点として考えれば、それを土台とし、それに付随して良い声、良いハーモニー、高いメッセージ性等があつてほしいと思います。

佐々木

ここまで詳しく教えていただいて感激です。御助言等、今後の活動にいかしてまいりたいと思います。

山脇先生

埼玉県合唱連盟の皆様の益々の活躍を期待しています。





第41回

全日本おかあさんコーラス埼玉県大会

(第43回おかあさんコーラス埼玉県大会)

2018年3月3日(土)・4日(日) 於:和光市民文化センター

平成30年3月3日、4日和光市民文化センター大ホールにて「第41回全日本おかあさんコーラス埼玉県大会」を開催しました。「歌うことは、生きること」をテーマに、歌声や振付、工夫を凝らした曲作りなど、笑顔と拍手に包まれたステージが繰り広げられました。招待演奏「彩の国プラチナ混声合唱団」に出演していただき、迫力ある混声合唱で会場は大盛り上がり(^~♪でした。



【講師の方からのアドバイス!】

大志万明子先生

身体は楽器です。手入れを良くすると響きます。表現は思いきって指揮者を飛び越えて生きている演奏をしましょう。



鈴木憲夫先生

連盟歌も音楽的に歌ってくれて嬉しいです。合唱は健康にとても良いのです。腹筋を使って背中、姿勢をしっかりと支えて響かせましょう。



宮本益光先生

良い合唱とは、個人が同じ方向性を向きチームとして音楽を作り上げています。流れ、ハーモニー、そして音楽としての言葉が伝わってきます。



選考、優先、抽選合わせて18団体が推薦され、関東大会に出演します。7月7日、8日所沢市民文化センターミューズで開催ですので皆さん聴きにきてください。

(常務理事 大館直美)

撮影:スタッフ・テス株

— お し ら せ —

第41回全日本おかあさんコーラス関東支部大会

2018年7月7日(土)・8日(日) 9:50開会～18:15演奏終了(予定)

於:所沢市民文化センター・ミューズ アークホール

埼玉県開催

<埼玉県の出演団体>

- 7日(土) ボローニア、浦和女声合唱団、女声合唱団コール・秋桜、ふるさと女声コーラス、コール合歓、コーロ・ブリランテ、ゆうかり女声合唱団、アンサンブル・シルキィ、アンダンテ・ルツツィカーレ
8日(日) コール・マーガレット、コラル・クローバー、女声コーラス秋桜、コーラスせきれい、Cache-Cache、カペラージョ、Ladies Choir 潮の音、ヴォーチェ・ビアンカ、コール・ドルチェ

入場券販売のお知らせ

入場券:小学生以上 1,500円/枚 (未就学児のご入場はご遠慮いただいております。)

お問合せ・お申込:埼玉県合唱連盟事務局

出演する合唱団は関東支部ホームページ (<http://jcak.jp/>) で随時発表します。

県大会からさらに磨きのかかった華やかなステージを、ぜひ聴きにいらしてください。





アルトの花道



華やかな女声合唱の舞台を、いつもいつも人知れず支えてくれているアルトの皆さんに、お話を聞かせていただきました。

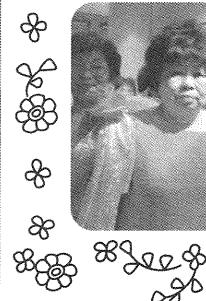
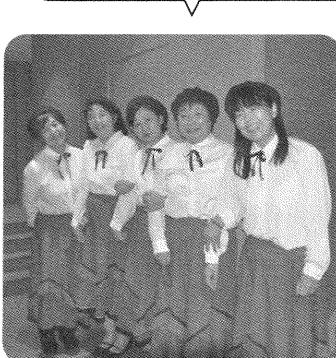
① アルトパートを歌って何年ぐらいになりますか？

- 20年、30年、長い方がほとんどでした。
- ここが私の居場所という気持ちで、ずっと歌っています。
- 合唱団にいくつか入っているが他のパートも歌っているので、他のパートの方の気持ちもよくわかっています。



② アルトパートを歌っていて、幸せを感じるときはどういうときでしょうか？

- このハーモニーは私たちが支えていると感じる時、充実感があります。
- ソプラノ、メゾがハモった時、支えているという喜び。
- 他のパートが必要としているバランスをアルトで取れた時。
- 低音の魅力を感じる時。メゾからアルトに動いて、低い音が出せたとき。
- 目立たないので、出来れば縁の下の力持ちに徹したい。チームワークでハーモニーを作り上げられた時。



③ アルトパートの方たちはどんな方たちですか？

- 目立たないですが、大らかで温かい人です。
- ど～んと任せられる。頼れるアルトです。
- 練習を休まない。真面目。わがままを言わない方たちです。
- ゆったりとしている。穏やかな人がほとんどです。
- ゆったりしているけれど、きちんとやるべきことはやる方たちです。
- まじめすぎるところがあるので、もっと碎けて歌ってくれていいのにね。
- 左右されずに、安定しています。プレないです。

他のパートの方から



④ アルトパートへの感謝を伝える言葉をお願いします。

- ありがとうございます。
- アルトを聴いていないと、歌えないです。
- アルトが聴こえてくるとほっとして、ハーモニーを乗せられます。
- 心から感謝しています。

インタビュアー：理事 大館 雅子
撮影：埼玉県合唱連盟



第32回国民文化祭・なら2017

合唱の祭典 in 奈良

2017年11月5日(日) 於: 奈良県大和高田市／大和高田市文化会館さざんかホール

Blanc Bouleau

代表 飯山 三五重

このたびは、Pauseへの寄稿の機会をいただき、大変嬉しく感謝しております。

Blanc Bouleau (ブラン・ブロー) は2009年に斎藤暢子先生のもと、ア・カペラアンサンブルグループとして発足し、来年10周年記念演奏会を催す予定です。

昨年の秋、9月から11月に開催されました第32回国民文化祭・なら2017の「合唱の祭典 in 奈良」に埼玉県合唱連盟から推薦をいただき、幸運にも11月5日に大和高田市文化会館・さざんかホールにて、全国から集まった総勢30の合唱団の一つとして、M. Reger作曲「Er Ist's (春)」、松下耕作曲「Miserere mei」、同氏作曲、谷川俊太郎作詞「静かな雨の夜に」の3曲を披露し、大変有意義な舞台を経験することができました。

当日は、普段、季刊誌ハーモニーの全国大会の話題で拝見する団体の、歌って踊っての目の前での演奏に大変興奮しました。

大会終了後、帰途に就く者と、法隆寺はじめ古都奈良を世界遺産巡りで観光を謳歌する者とに分かれ、奈良の香りと柿の葉寿司を手に新幹線に乗りました。

このたびは本当に素晴らしい機会をありがとうございました。これから多くの歌を経験し、多くの方に聴いていただけるような団になれるよう精進していきたいと思っています。



彩の国男声コーラスフェスティバル2017

2017年11月4日(土) 於: ウエスタ川越

今年度の男声コーラスフェスティバルは埼玉の男声合唱の聖地と言われている川越、新しい文化発信の場所ウェスタ川越で実施させていただきました。

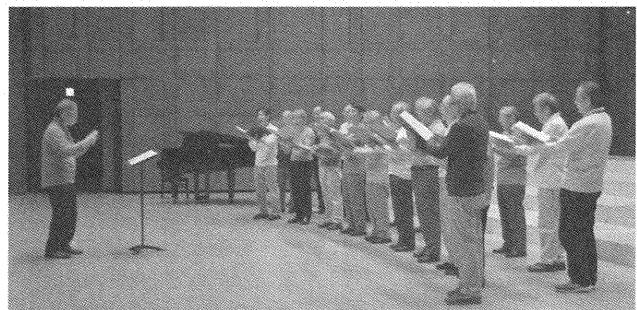
今回もタイムスケジュール限界までの参加団体数を頂き、運営も大変でした。しかし、それも嬉しい事であり感謝の気持ちで一杯です。講師には本県合唱連盟、前理事長、宮寺、北川両先生をお迎えし、講評から特別編成の合唱団の指揮までご協力頂きました。

埼玉での男フェスは故小高理事長のひと声から始まりました。もともと川越は男声合唱の盛んなところであり、小高先生は川越のご出身でもあり、常々川越での実施を願っておられました。先生の思いが叶ったのではないかと思っています。

今年も関東全域から集まって頂いた男声合唱好きの皆さまの暖かいお気持ちの中、楽しく歌い、呑み、笑うことができたように思います。ありがとうございました。今回は川越の男声合唱団 Il Campanile始め、川越の男声合唱関係の皆さま方に多大なるご協力を頂き、沢山の企画で盛り上げて頂きました。本当にありがとうございました。流石川越！

来年度は秩父です。歌がつなぐ友情。来年度もよろしくお願ひいたします。

(常務理事 蓮沼 喜文)





Tact vol.25



指揮者 北川 裕

私は、昭和56年4月に埼玉県立高校の教員として採用され、昭和61年4月には2校目の大宮高校で音楽部の顧問となり、合唱指導者としてのスタートを切りました。当時も、大宮高校音楽部は、埼玉県の高校合唱界をリードする力量の高い混声合唱団でした。いわゆる新設校から異動してきた若輩の私にとっては、かなりの重責でした。自分自身が学ばなければならぬと痛感し、まず『指揮法』を学ぶことにしました。そこで、故櫻井将喜先生の門をたたき、指揮法を学びました。平成4年度は、埼玉県長期研修教員として、東京芸術大学において、1年間研鑽を積みました。芸

大では、音楽教育研究室において山本文茂教授にご指導いただくとともに、合唱指導については田中信昭先生に多くのことをご教示いただきました。大宮高校では、平成6年の第30回記念定期演奏会において、高嶋みどり先生に「混声合唱とピアノのための『地球の子供たちへ』」を委嘱し、初演を行いました。平成9年4月には、3校目となる大宮光陵高校に異動となりました。より活動の幅を広げたいという生徒の強い要望から、私が着任した最初の年からコンクールに挑戦しました。幸運にも、県大会で金賞を受賞し、関東大会において、銀賞を受賞しました。大宮光陵高校にはわずか5年の勤務でしたが、3年目には、念願の全日本合唱コンクール全国大会出場を果たし、銀賞を受賞することができました。

平成13年からは、地元深谷市で活動している「深谷混声合唱団」を指導することとなりました。今年創立58年を迎える伝統ある合唱団で、現在も指導させていただいております。さらに、平成22年には、新たに「深谷市少年少女合唱団」を創設し、その音楽監督を務めています。同年、新たに立ち上げられた混声合唱団「深谷ブリックスハーモニー」の指揮者も務めております。これからも、生涯にわたり精力的に「合唱」に携わってまいりたいと考えております。

こんにちは！ 練習にお邪魔させてください。

合唱団訪問記 [所沢「ねむの会」]

所沢市で活動する、所沢「ねむの会」の練習にお邪魔しました。

ねむの会は40周年の演奏会を一昨年終えた、長い歴史を持つ女声合唱団です。

明るくキュートな奥村さゆり先生のご指導のもと、40分間の発声から始まりました。呼吸、発音、表現にわたって、次々と楽しく続いていきました。

選曲は奥村先生がなさるそうで、言葉の持つニュアンスの表現を中心に、丁寧なご指導を見せていただきました。先生が指揮者となってから、24~5年がたっているとのことで、先生の思いが団員に伝わり、練習の流れがとてもスムーズでした。また、ピアニストと先生の呼吸が自然で、練習の質の高さに驚かされました。

団長さんが合唱団の思いを「健康で、楽しく平穏に長く歌っていきたい。」とおっしゃると、先生も「楽しむために集まっているのだから、楽しくなくては意味がないし、健康のために長く歌い続けてください。」と、両方の思いが呼応している、温かな空気の流れる合唱団でした。

(理事 大館 雅子)



あしらせ

SAITAMAコーラスワークショップ2018

～埼玉県合唱祭と同時開催しています～
6月2日(土) 午後 埼玉会館小ホール

①NHK全国学校音楽コンクール中学校の部課題曲講習(女声)	②岸先生の指揮で「海鳥の詩」を歌おう(混声)
岸信介先生	岸信介先生

6月9日(土) 午前～午後 さいたま市文化センター小ホール他

①午前 NHK全国学校音楽コンクール中学校の部課題曲講習(混声)	②午後 合唱の本当のキソを身に付けよう
野本立人先生	伊東恵司先生
③午後 全日本合唱コンクール課題曲講習(女声F3松山女子高校音楽部)	④午後 Let's sing Jazz!
伊東恵司先生	ジャズウォーカルグループBREEZE

平成30年度合唱コンクールの審査員について

第61回埼玉県合唱コンクール

8月25日(土) 高等学校部門

清水雅彦、鈴木茂明、高橋啓三、武田雅博、保延裕史
26日(日) 小学校部門・中学校部門混声・同声

清水雅彦、鈴木茂明、高橋啓三、武田雅博、保延裕史

9月2日(日) 彩の国部門・大職一般部門

江上孝則、柏谷宏美、清水雅彦、武田雅博、藤井宏樹

第73回関東合唱コンクール

9月22日(土) 高等学校部門A・B

23日(日) 中学校部門同声・混声

江上孝則、菅野正美、清水敬一、鈴木茂明、長谷川冴子

10月21日(日) 大職一般部門

江上孝則、菅野正美、佐藤正浩、鈴木茂明、長谷川冴子

コンクールの参加団体は第73回関東合唱コンクール終了時まで、埼玉県合唱コンクール及び関東合唱コンクールの審査員に指導を受けることを禁じます。

ヨコの委員会報告

《事業検討委員会》

60周年記念コンサートでの再演に向け、ジュニアの事前練習を行いました。2回目の練習では、宮ヶ原千絵先生、鈴木英恵先生に再度、振付のご指導も頂きました。ジュニアの子どもたちは、ワークショップの時に比べ緊張もほぐれ、のびのびと歌える様になりました。

【練習日時】(全2回) 2月12日(月・祝)、3月17日(土)

そして迎えた本番、ジュニア総勢133人が歌声とパフォーマンスでひとつになりました。大成功です!!

♪各団の先生方や保護者の皆様には、事前練習から演奏会当日まで、いろいろとサポート頂きまして、誠にありがとうございました。
(理事 小林とせ子)

《シニア委員会》

昨年度シニア委員会では「彩の国プラチナ混声合唱団」を立ち上げました。118名で楽しく6回の練習をして、おかあさんコーラス大会、みなとみらいホールのゴールデンウェーブに出演いたしました。自分たちで言うのもなんですが(◦‿◦)、本当に熱演で、あの大きなみなとみらいホールの空間にエネルギーが流れ込んでいくのを感じ、鳥肌がたちました。

今年度も昨年度同様活動しています。3/3のおかあさんコーラス大会を終え、4/16のゴールデンウェーブに出演します。

(常務理事 南めぐみ)

印東公民先生の四コマ漫画コーナー 合唱あるある

◆練習中に考えていること◆



《組織・財政委員会》

今年度もヴォーカルアンサンブルコンテストの会場で、大会記念のクリアファイルを販売しました。今後も、新しい企画を検討していきます。

(理事 須藤るり香)



* * * * * それぞの周年記念 * * * * *

60周年

浦和混声合唱団

団長 佐藤 幸雄



平成29年5月13日（土）埼玉会館大ホールに於いて開催し、記念演奏会はたくさんのお客様を迎えて、無事に終えることができました。

私たちの合唱団は、昭和31年10月、旧浦和市の市民合唱団として誕生いたしました。初代指揮者は団の創設にも関わった渋谷禎三氏で、浦混の基礎を築かれました。他にも著名な指揮者の方々や、木下 保氏、田中信昭氏をはじめとした多くの客演指揮者、ピアニストのお力によって発展を遂げてまいりました。

その間、様々な歴史を積み重ねてまいりましたが、昭和51年（1976年）、現全日本合唱連盟理事長の岸 信介氏にご指導をお願いしてからは、無伴奏の宗教曲が活動の中心になり、純度の高いハーモニーを追求すると共に、更なる合唱音楽の高みを目指して練習に励んでおります。合唱コンクール全国大会にも7回出演することができました。

今回の演奏会では、創立60周年の記念として、当代の人気作曲家、信長貴富氏に作曲を委嘱し初演したことが大きな出来事でした。混声合唱曲集「da capo」という曲です。

最後のステージでは、浦混のOBOGを交えて、これまで歌い継いできた多くの曲の中から、特に想い出深い曲を集め演奏し、感動の内に終演となりました。

今年からは、新たに65周年、70周年と先を見通して、伝統は守りつつ、新しいチャレンジも試みながら邁進していきたいと思っています。

今後とも、皆様のご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



10周年

女声合唱団 浦和リーダークリス

五月女 昌子・種田 泰子



創立10周年記念 第5回定期演奏会を終えて

浦和リーダークリスは、2006年秋に団員16名でスタートしました。

さいたま市主催の市民合唱団より山内廣文先生を指揮者にお迎えし「練習は休まず参加すること」をモットーに、先生から発声の基礎、コーラスの楽しさ、美しさ、そして奥深さを学び、歌うことを何よりの楽しみとする仲間達の〈歌の輪〉となりました。

団名「リーダークリス」とは独語で〈歌の輪〉の意味であり山内先生が名付け親でもあります。

2年毎の定期演奏会開催を目標に練習に励み、創団10周年を迎えた2017年5月、第5回定期演奏会を盛大に開催しました。この記念すべき演奏会では我々団員の演奏だけではなく、初めての試みとして、姉妹合唱団であるアーベントコールの皆様や、公募で集まっていた皆様と共に、現在世界的に注目されている作曲家、佐藤賢太郎氏の壮大で優美な作品「マニフィカート」を大合唱で演奏して大きな〈歌の輪〉を広げました。

現在は次なる目標である第6回定期演奏会に向けて毎週1回の練習に励んでいます。

これからも元気で楽しく歌える幸せに感謝して〈歌の輪〉を大切に歌い続けていきたいと団員一同願っています。





♪私たちの場所

Stage

エローラ混声合唱団

代表 稲井 巡

当団は、1990年6月松伏町の文化事業の一環として、指揮者中脇幹夫先生を迎えて誕生しました。1992年第1回の演奏会を開催以降、作曲家芥川也寸志氏の監修による田園ホール・エローラを中心に演奏活動を重ねてまいりました。1992年から、文化庁の「文化の町づくり事業」の一端に加えていただく等、恵まれた環境で活動を続けることができました。埼玉県合唱祭への参加、定期演奏会そして続けてきましたクリスマス・チャリティコンサートも第20回目を、昨年の12月に開催するなど、活動を重ねてまいりまして、いつしか29年目を迎えます。響きのすばらしい田園ホール・エローラに負けないハーモニーを目指して頑張っています。

創価学会 埼玉男声合唱団

団長 太田 茂和

はじめまして！私たちは創価学会埼玉男声合唱団と申します。埼玉県内に在住の、14歳から42歳まで約30名で活動しております、親子ほど離れたメンバーもいますが、仲良く切磋琢磨しています。

今年で結成21年。2016年より合唱コンクールにも挑戦。地域行事など、年間で10回程度の出演の機会の中で、地域活性の一助となれるよう活動をしております。

私たちは、歌声を通して世界の文化向上と、聴いてくださる方々の笑顔と活力となれるよう日々精進をしています。

素人ばかりが集まった合唱団ですが、合唱への熱い想いを持ったメンバーばかりです。今後も埼玉男声合唱団を宜しくお願ひいたします。

ツイッターより始めました。
@scl_from1957
フォローお願いします♪

編集
後記

Pause第48号をお届けいたします。県内外の活発な合唱活動の報告と、今回はアルトの花道、山脇先生へのインタビューなどお楽しみいただけたでしょうか。今後も皆様の豊かな合唱ライフのお手伝いが出来れば光栄です。（理事 浅子 元）

50代。住まいを
遊べる歳になった。

リフォームは、オトナの遊びです。

6年連続 埼玉県で

ビルダー・工務店部門で

ポラスグループリフォーム売上高（2017年 リフォーム産業新聞調べ）

リフォーム売上高 No.1



ポラスのオールリリフォーム

検索



0120-85-7272

住まい価値創造企業
POLUS
ポラスグループ